

伝統に先端技術導入

ナノテック 陶芸会社を設立

ナノテック(埼玉県白岡町、中森秀樹社長、0480・933・2911)は独自の焼き物である

も設置し、数年、同社が力を入れている樹脂部品の接着剤の研究開発をさらに強化する。同社は新工場の稼働を機に、生産効率を向上し一層の受注拡大を狙う。なお、新

本社の電話番号は0562・4337311。

る金剛焼(写真)の陶芸会社「魯暖坊」(福岡県筑紫野市)を設立し、このほど創作活動に入った。伝統産業の

陶芸に先端技術を導入し、これまでにはない、新感覚の陶芸作品を創作するのが狙い。

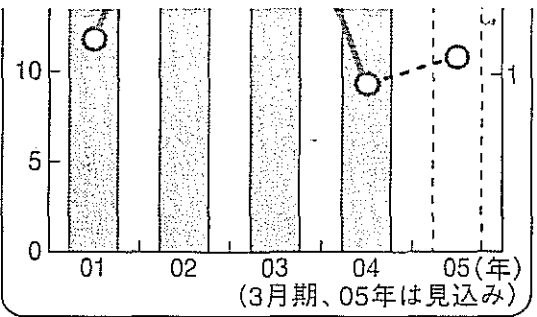
金剛焼とは、ナノテックが開発したDLC(ダイヤモンド・ライク・カーボン)成膜技術を応用して、窯から焼き上

し使える、消せるトナ

ー「e-blue」や、東芝PC&ネットワーク社が出展するIP電話を核としたビジネス電話システムなど。

(右)いたま

モノづくり 3億円の受注狙う



燃料再処理剤の研究を通じて新分野進出の糸口を探る。数年後には青森県六ヶ所村に独自の核燃料再処理剤工場を移転する予定だ。「国策にもたれかからない事業展開が理想」(同)と危機感を持ち、独自の技術力を生かした新分野開拓に意欲的だ。

2012年には売上高を03年3月期比で1.5倍の約28億円に、自己資本利益率は同2倍の10%の定着を目指す。

(西東京・坂田奈央)

(木曜日に掲載)



げた作品の表面にDLCコーティングした陶器。これまでにはない独特の干渉色が表現でき、芸術性を高めた。また、作品の表面はダイヤモンドと

同等の硬さになる。これによってズなどが防げ、紫外線による退色防止も期待できる。さらに、酸素バリア効果で内容物の長期保存も可能という。

この金剛焼を手がける陶芸家は、日本現代工芸美術家協会会員で日展作家の中森久明氏。魯暖坊の会長に就任した同氏は中森社長の実父でもある。「素朴で素直、ロマンに満ちた万葉の心を原点におき、自然や人間の美しさを(DLC)コーティングした)色や形で表現したい」(久明氏)と創作意欲を見せる。また中森社長も「新旧の技術を融合させ、新しい芸術作品を提供したい」という。